

1. 南生協病院さんの施設見学や説明を通して感じたこと、印象に残ったことを書いてください。

病院の設計や設備に関すること

【総合待合、玄関ロビー、外来】

- ◇総合待合の雰囲気がよく利用者にとってわかりやすいつくり（ここで医療と健康づくりの両方が見渡せる）。
- ◇まずはロビーに病院の匂いがないのに驚いた。日建設計の同行者に尋ねると、偶然ではなく、空調と機密性、空間の取り方など、設計上の工夫があつてのことという。“病院らしくなさ”は、五感全体で感じられてこそ本物だと知らされた。
- ◇玄関ロビーや検診ロビーに置かれているイスが、一般的な病院に置かれているものとは違い、デザイン性が重視されている。
- ◇最近できた博物館や記念館のように、各フロアの色使いが柔らかく、落ち着いた雰囲気があり、また、案内表示や診察室に番号を付け、新患でも分かりやすい病院だと思った。
- ◇エントランスホールの出入口が自動扉で2ヵ所併設されている。風対策等を考えると素晴らしい設計と感じた。
- ◇外来の通路が広く、又病院独特の病院臭が全くない。
- ◇全体に窓が多く広く設置されており、夏の熱さ対策を少し危惧したが、全く心配いらぬ状況であった。
- ◇入院患者さん用のクスリを作る場が二階の目立たないところにあつて、そういった特有の臭いが一階など病院内にないこと
- ◇喫茶コーナーやコンビニなどがある明るく、広々とした玄関スペース
- ◇正面玄関を2つ持ち、病院利用者以外のエントランス通路をつくり、病院外も含めた動線にもこだわりを持たせおりすばらしい。
- ◇中に入るとすぐに、レストラン&ショップがあり、エントランス通路は、患者さん以外にもJRの駅を利用する会社員や学生さんが22:30まで利用しているとの事。市民の交流の場として、使い易い机と椅子が置いてあり、長椅子は見かけませんでした。
- ◇床は当初の設計を変更し、弱視の方の意見を取り入れ床が浮き上がって見えないものになっているとうかがい、細かい所まで患者さんの意見が取り入れられている事に感心しました。
- ◇患者の動線が良く考えられており、外来部門はコンパクトな設計であった。（通院患者がいるときの流れを確認する必要があるが。）

【病棟・病室】

- ◇設計上の細かいことであるが、病棟（4人室）内の間仕切りカーテンの上部（1.8m以上）は網目状になっており、少しでも明るくするという配慮が感じられた。
- ◇お金をかけないアイデア。入院部屋の名札、スタッフの顔写真付き紹介（CDケースを

使って)

- ◇病室の窓も、各ベッドに1カ所は設置されている案も大賛成です。
- ◇緩和病棟に、ご家族が泊まる部屋があったこと
- ◇一部しか見ていないが内部スタッフにとっても使い勝手の良い設計となっている印象。
- ◇小さな窓にまでカラフルな色が使われていて、患者たちの痛みや暗くなりがちな気持ちを明るくするような細かな配慮がある点
- ◇病室も大部屋でありながら、窓を各自のスペースにとり、光の配慮がされ、利用者が利用したくなる工夫が至る所になされていた。もし、自分が入院するとしたら、利用したいし家族が入院することになっても勧めたいと思う病院であった。

【ユニバーサルデザイン】

- ◇利用者に配慮した設計。トイレの手すりのつけ方、手すり・テーブル付のイス、そうじのしやすい材質、外来待合の順番案内の表示（目でも耳でも分かる）、ネーミング
- ◇バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを学びました。
- ◇エントランス等のスペースが大きくなると手すりの導線が途切れがちになります。玄関受付から診察室あるいは一番近いトイレまでの導線、また病棟から検査室までの導線を考慮して手すり位置が考えられているとは残念ながら感じられませんでした。その点は逆に旧来の廊下真っ直ぐの病院の形状のほうが手すりの導線が作り易いのですが、ベンチやテーブル、固定看板もデザイン機能を持たせれば立派な手すりになることはユニバーサルデザインの視点からは当たり前のことです。目線を「誰のために」向けて考えているのか常に心がけてもらいたいものです。
- ◇案内看板が親しみやすい言葉になっている。
- ◇文字をなるべく少なくして、マークなど誰でもわかりやすい表示になっている。
- ◇多目的トイレは、整形外科の病棟にあるものが良いように感じたので参考に…！！
- ◇受付から受診科に行く時も、番号で大きく表示されていて迷いにくくなっていた。

【隣接付属施設】

- ◇スポーツジムがある。
- ◇旅行社がある。
- ◇人気のパン屋さんや有機野菜を使用したレストランがある。
- ◇地域の人が利用できるカルチャーセンターのような施設がある。
- ◇検診センターも、落ち着いた雰囲気の中、すべての検診室がワンフロアに、コンパクトに配置されていて、テンポよく検診が受けられると思った。待合の白い1人用イスも、個人的に気に入りました。
- ◇メンタル患者のデイ・サービスがあり、畳スペースと簡単な料理が作れる部屋があったこと
- ◇やや病院ら離れた助産所の建物に行ったが、自宅に帰ってきた気分になるような部屋があったこと

- ◇保育所が院内と、院外にあること
- ◇有名な石窯パンの店やカフェが隣接した、ショッピングモールのような「ここが病院？」と思わせる外観が迎えてくれました。
- ◇フィットネスクラブがあり、最新鋭の機器で多くの会員さんが汗を流していました。
- ◇病院機能以外の店舗等も充実しており、地域との一体感があった。
- ◇新常滑市民病院の産科分娩は出来ない予定とのこと、核家族の場合、退院後・ケア・助け手が必要。助産院「はあと」のような施設が併設されているといいと思う。できれば住む（入院する）ことができれば他市からでも需要があると思う。
- ◇外部からレストランに入りやすくするには、病院内のエレベーターでというのは難しい。保健センターの方のエレベーターで最上階まで行けるようにするか、南生協病院のように隣にあった方がいい。
- ◇おいしいパン屋さんも大変人気のようで、何か人が集まる工夫も大切であると思いました。実際にとてもおいしかったです。
- ◇有名なショップとの共存スペースなど利用者を退屈させない発想が病院経営にも利益ももたらしているのだと思う。

【災害時対応】

- ◇災害の対策も配慮。出入口の広さ、大きすぎる程の案内番号表示など
- ◇耐震構造が常滑は免震、南生協さんは制振とのこと、どちらが地震に強いのでしょうか。

【メンテナンス】

- ◇鉄骨造のデザイン上生じる、梁上や階段脇、階段下、柱とガラスの空間、アール部と直線部の取り合いといったデッドスペースにおける埃溜まりが仕事柄この施設でも気になりました。病棟と地域共有スペースが区分されている分まだマシでしょうが緩和ケア部分でも見受けられたので建築の段階で作らなくてもよい埃や細菌ウイルスの逃げ場所溜まり場所は見直されるべきだと常々思います。
- ◇明るい色使い、採光スペースの多さは素敵だと思いました。その一方でメンテナンスが大変そうだなと、特に鉄道が近い分より一層感じました。そこにもボランティア力、組合員参加が生かされ施設維持に貢献していることが素晴らしいと感じました。

【セキュリティ】

- ◇とてもオープン（日頃から利用することが将来につながる卓球台）であるが、職員しか入れない場所の管理は徹底
- ◇オープンスペースが多くあったにも拘らず、セキュリティや省エネも考慮して、間仕切りが考えられていた。

【駐車場】

◇たくさんの車が停められて、屋根のある駐車場がうらやましく思う

【トイレ】

◇一番印象に残ったことは施設の清潔さです。新しいということもあるかもしれませんが、トイレも含めてどこも掃除が行き届いていて気持ちよく見学させていただきました。

地域とのコミュニケーション、病院への参加に関すること

- ◇利用者の75%が組合員で地域密着型の病院であることが素晴らしい。(運営も経営も)50年の歴史があり、様々な人がかかわってきたからできたこと、組合員の班・支部・ブロックの地道な活動の成果
- ◇自分たち自身が身を削り(出資して)創り上げる、運営していくという生協病院と違い、市民病院(自治体病院)は時の市長が法律に基づいて建設、運営していくものであるため、市民自身が運営する、支えていくという意識は育ちにくい。これからは、機会あるごとに市民の自治意識、市民協働の精神を高揚させていく取り組み強化の必要性をあらためて感じさせられた。
- ◇エントランスホールが地域の通勤、通学の一部に利用されていること、卓球台が設置されていて地元の子供が利用しているところ、生活関連施設が併設・隣接している状況を見て、これからの地域の中で運営する病院のあり方を考える上で大変参考になった。
- ◇新病院づくりの企画・運営の勝利。組織・役割分担が明確化され且つそこに係わる生協・病院のコミュニケーションにも優れ一体感を持って進められた結果と想像しました。
- ◇常滑新病院建設には生協の組織に代わる何らかの体制整備が必要、事務局の皆様には開院後も視野に新病院と市民とのコミュニケーションをとりつづけ支えて行く役割を是非継続していただきたい。
- ◇研修用会議室の充実。南生協では市民とのコミュニケーションに病院棟以外の床面積を有効利用している。会議室等については市民とのコミュニケーションの要となる保健センター、検診センターとの連携共同利用で確保できないか?
- ◇組合員の積極的参加による病院づくりの一端を見ることが出来たと思う。この様態を市民病院に置き換えて考えるとボランティア育成含めーから始めなければならないことが多いと感じられた。そのためにも市民参加機会をことあるごとに設け病院・役所・市民の垣根なく情報発信と情報共有が為されることを望む。たとえばこの市民会議もオープンで座席数に余裕があるのだから少々視察に参加したい人や会議を覗いてみたい人を随時募集していてもいいのではないかなと思う。
- ◇医師や看護師の紹介カードを利用者に配布している。
- ◇病気でない中学生が卓球をして遊んでいた。
- ◇説明を地域理事(それも男性)が担当するというのは、常滑でもゴミ委員会で目指したところ。地域における有料化の説明会を、市民委員が見事こなしたことを思えば、驚く

ほどのことではない。

- ◇内覧会になんと10万人、新病院利用者確保保証。入場料を払っての10万人規模の内覧者確保に驚き、成功させようとの熱意の賜物。軌道に乗せる第一歩、このイベントは大変重要と感じました。
- ◇南医療生協は、組合員と職員を中心に地域の人々を取り組み、自分たち一人ひとりが地域を支えているという意識のもと、保健・医療活動によるまちづくりを行なう、自主的な組織だと言うことに驚かされました。市民協働、まちづくりを行なっていく上でのヒントが、そこにあるような気がしました。
- ◇南生協病院は生活協同組合が設置した病院で、組合員が主体の組織作りがしっかりできている。市民病院とは設置目的と方向が違うが、意識としては参考となる。
- ◇少年たちが元気に卓球をしたのは印象的で、どなたにも気軽にスポーツなどが出来る新・常滑市民病院になってほしいもの
- ◇“みな 1000 運動”（知り合いの医師や看護師を紹介する）にはびっくりしました。どこまでも、自分達の病院は自分達で守る！という精神、心構えが素晴らしい！と思いました。
- ◇組織の素晴らしさ、さまざまな視点から必要とされるものを病院以外にも備えている。すべてにおいて、まさしく人が創り上げていることにおどろかされた。新病院は、このとおりにはいかないまでも、よいところは部分的に取り入れることは十分可能性があると思っている。
- ◇医師・看護師不足の課題解決に、「みな 1000 運動(紹介カード)」で7/1を確保している。スモール・ワールド（知人紹介で4人を経れば、アメリカ大統領にも会うことができる）の例えのように、良い医師・看護師の獲得ができると確信した。特に、不足している産婦人科医師を総力(紹介)をあげて獲得したい。
- ◇JR 駅からの通学通勤通路としての利用の許可や卓球など市民にスペース空間を無償で解放している。

ボランティアに関すること

- ◇今から37年前の昭和50年に「障害があろうとなかろうと共に住みよい地域社会づくり」を目指してボランティアグループを結成したが、南医療生協の基本理念「みんなちがってみんないい・・・」に通じるものを感じて、意を強くした。
- ◇一つの取り組みとして、例えば「市民病院を支える会（仮称）」を結成し、学習や市民への啓発活動、病院ボランティアの募集、要請等をおこなう。そして、その必要経費は自分たちの負担する会費等で運営するということが考えられる。
この活動の成否は、実際にそれを実践する（汗水流す）人材の確保によると思う。
- ◇当院においても、新病院オープン前に「院内ボランティア養成講座」等を開催すれば、ボランティア育成と「自分たちの病院」の意識向上に大きく寄与するものと思う。（待っ

ていてはボランティアは来ません) 病院主体による「ボランティア養成講座」の開催を強く願う。

- ◇地域のボランティアさんが、さまざまな場面で活躍している点
- ◇会員・地域の方を中心に運営されていることです。図書・緑化ボランティアの方々が無償で病院を支えていて、花の苗や種も自分達で持ち寄り、四季折々に花が絶えることはないそうです。
- ◇手作りのベッドカバーやぬいぐるみも心が癒されました。組合員さんやボランティアさんの力で成り立っているようなので常滑市でも同じようにできるとは思えませんが、市民の関心をもっと集めることができれば、少しは近づけるのではないかと思いました。
- ◇生協ということもあり、各組合(愛)員が病院の雰囲気づくりに大きく貢献しているのではと感じた。

組合員の出資に関すること

- ◇「組員」だろうが、「組愛員」だろうが、多少でも出資をすれば病院との結びつき、病院への愛着も、より強くなるのは道理である。ボランティアをただ募っても、南生協病院のように調理のプロ(料理教室)や園芸のプロ(庭の管理)たちが名乗りを上げてくれるだろうか。公立病院で“出資”に代わる協働のあり方を見つけることが、新しい市民参加、新しい市民病院づくりのカギだと考えさせられた。
- ◇組合員が出資をし、それが総事業費の1/4にもなった。多少なりとも出資をすれば、「私の病院」という意識が生まれ、病院に愛着が生まれる。
- ◇イベントを開催するにしても、地域(組合員)を中心に置き、費用の面でも自分達が中心となるような活動がなされている。
- ◇出資金、協賛金等を自ら支出することで、参加する組合員の気持ちの入れ方が真剣になる。これは参考になることと感じた。(有料のイベント開催)
- ◇生協組合員6.6万人のバックアップ体制により病院が支えられており、病院経営に力強さを感じる。

基本理念に関すること

- ◇建設時の基本方針として「街作りのなかに病院を置く」という基本理念が確立している。地域の方々に、病院の敷地内や建物の中に気軽に入ってもらえるような工夫が色々なされている。これは素晴らしいことと強く感じた。
- ◇南生協病院理念:「共に歩む医療で、笑顔と「ありがとう」が溢れる病院を目指す」「みんながいて、みんないい、一人ひとりの命輝くまちづくり」、新常滑市民病院の理念:「小さいからこそできるコミュニケーション日本一の病院を目指す」のコミュニケーションでは抽象的で解りづらい、日本一とはどのような姿を描くのか、もっと具体的な行

動ができるように表現する必要を感じた。

- ◇①急性期医療ゾーンから⑩みなみ安心まちづくりゾーンと10のゾーンをつくり幅広い、地域づくり、まちづくりの理念が活かされている。
- ◇新病院づくり『10のゾーン』の内容・テーマは完璧。何を目指しているのか、目的・狙いが見事に整理、集約されてぶれない具体策推進の要をなしていると感じました。
- ◇地域や組合員の病院としての理念がはっきりしていて、すばらしいと思いました。その理念により、多くのボランティアが病院の開院時の内覧会や、開院後の普段の診療、運営に大変積極的に参加されており、それがまた病院のよい特徴を支えてみえるのだと感じました。今後市民病院が市民に支えられた、また市民が誇れるような病院になれるようにしたいと思いました。

その他感想など

- ◇土曜日の午後だからでしょうか、看護師などの職員の数が少ないように思いました。
- ◇こちらから挨拶をしないと応えてもらえず、声掛けがし辛かった。
- ◇施設・対応いただいた関係者の接待を垣間見て自身も足を運んでみたい病院でした。
- ◇病院の利用者の意見を可能な限り取り入れている。
- ◇病院全体のイメージ（雰囲気）が「病院」らしくない病院だと思った。
- ◇事務局では早い段階から南生協病院さんをモデルにイメージして新病院建設構想を進め交流、ノウハウを生かそうとご努力されていること、さらには新病院施設の設計担当が南生協病院さんと同一である事から大きな土台が出来つつあると確信しました。
- ◇今回当院の設計者と、南生協病院の設計者と同じとのことで、第1回の時の新病院の設計案の説明が徐々にではあるが想像できるようになった。
- ◇今回、近代的な「中部建築賞」受賞の素晴らしい建物を見学させて頂きましたが、それを活かしていくのはどこまでも“人”である事を教えて頂きました。100人会議から始まって現在6万人、更に10万人を目指している事を伺いました。私たちも見習って行かなければいけないと思います。
- ◇患者・家族にやさしく、スタッフが働きやすい、また多くの市民がサポーターとして関わることのできる開かれた病院を目指し全体像を、また細部についても、無駄なスペースをつくらず全て意味や用途を考えた設計となるよう考えて行きたい。
- ◇病院＝「病気を治す場所」という固定のイメージではなく、市民の集うエリアという明るい場所になっている発想が素晴らしいと思う。常滑市民病院は保健センターも併設され、まさにお年寄りから妊娠中の胎児までが集う市民のエリアとして楽しく、皆が集まりたいエリアにできればと思う。